

小学生(中学年)向け



『あっちもこっちもこの世はもれなく』

いとうみく／作 ころりよ／絵

PHP研究所 ¥1,400 (税別)

小学4年生の公太は、背が低いことが悩んだ。バレーボールクラブで頑張っているが、背が高い友人、希来里だけスタメンに選ばれ、不公平だと思ふ時がある。だが、ある時、希来里にも悩みがあると知り…。



『海をわたる動物園』

いちかわけいこ／作 村田夏佳／絵

アリス館 ¥1,400 (税別)

戦争中に動物がいなくなった日本の動物園のために、戦後アフリカから動物を船で運ぶことになった。その船に乗り合わせた主人公シュンが飼育に関わった2か月間を描く。動物たちの知られざる生態が興味深い。実話を基に書かれた本。



『お山のライチョウ』

戸塚学／写真・文 小宮輝之／監修

偕成社 ¥1,600 (税別)

20年以上、立山でライチョウを撮影している写真家による写真絵本。高い山に住むライチョウの生態から、ライチョウが暮らす環境の悪化と原因、絶滅の危機までを伝える。山梨県南アルプス市の北岳におけるライチョウ保護活動も紹介。



『かず』

神永暁／監修

講談社 ¥2,500 (税別)

日本語には様々な表現方法があり、言葉だけでは伝わりにくいものも多い。本書は一丁、一ぱいなどの数え方、一尺、一合といった昔の単位など「数」を表す表現を、イラストや写真を使ってわかりやすく説明している。



『神社のえほん』

羽尻利門／作

あすなろ書房 ¥1,400 (税別)

神社に初詣に来たばかりは、おじいちゃんに神社が何のためにあるか聞いてみた。おじいちゃんは同級生の宮司を紹介してくれて…。神社の参拝の作法、ご神体、祭礼、働く人たちなどをイラスト付きで紹介する一冊。



『すごいゴミのはなし』

滝沢秀一／文 スケラッコ／絵 萩原まお／絵

Gakken ¥1,300 (税別)

お笑い芸人で清掃員でもある筆者が、活動を通じて体験したことやゴミ問題を、ユーモラスな文体で紹介する。世界のゴミ事情、珍しいゴミ、収集車の解説、悪臭の原因などの知識から、「ゴミ」とは何か?という問いと答えまで盛りだくさん。



『バスが来ましたよ』

由美村嬉々／文 松本春野／絵

アリス館 ¥1,400 (税別)

病気で目が見えなくなった男性は、通勤バスを逃すまいと、耳をすましてバス停で待つので、気を張る日々を過ごしていた。ある朝、「バスが来ましたよ」という女の子の声が聞こえて…。実話を基に、男性と小学生の温かな交流を描いた絵本。



『和ろうそくは、つなぐ』

大西暢夫／写真・文

アリス館 ¥1,500 (税別)

和ろうそくの工房から話は始まる。工程をたどると、蠟の原料のハゼの実を搾ったカスは藍染職人が使い、藍染で使い終わった灰は焼き物職人のもとへ…。不要となったものも捨てることなく循環させる、昔ながらのモノ作りを伝える写真絵本。

その他のおすすめの本

『オオムラサキと里山の一年』

筒井学／写真・文 小学館 ¥1,300 (税別)

『おなかをすかせたドラゴンとためいきゼリー』

仁科幸子／作 あすなろ書房 ¥1,300 (税別)

『おはなしのたねをまくと…』

クワケイオ・ゴッペッティ／文 ティヤナ・ニコワ／絵 いのうえさあや／訳 関口英子／監修 工学図書 ¥1,800 (税別)

『クーちゃんとぎんがみちゃん』

北川佳奈／作 くらはしれい／絵 岩崎書店 ¥1,100 (税別)

『戦争をやめた人たち』

鈴木まもる／文・絵 あすなろ書房 ¥1,500 (税別)

『そうだったのか! 国の名前由来ずかん』

西村まさゆき／著 タラジロウ／絵 辻原康夫／監修 ほるぷ出版 ¥2,900 (税別)

『タヌキの土居くん』

富安陽子／作 大島妙子／画 福音館書店 ¥1,100 (税別)

『鳥は恐竜だった』

鈴木まもる／作 アリス館 ¥1,800 (税別)

『なりたいわたし』

村上しいこ／作 北澤平祐／絵 フレーベル館 ¥1,300 (税別)

『はだしであるく』

村中季衣／文 石川えりこ／絵 あすなろ書房 ¥1,500 (税別)

『火の山にすむゴリラ』

前川貴行／写真・文 新日本出版社 ¥1,700 (税別)

『ふしぎなメリーゴーラウンド』

リーザ＝マリー・ブルーム／作 こやまこいこ／絵 はたさわゆうこ／訳 徳間書店 ¥1,500 (税別)